

経営比較分析表（令和元年度決算）

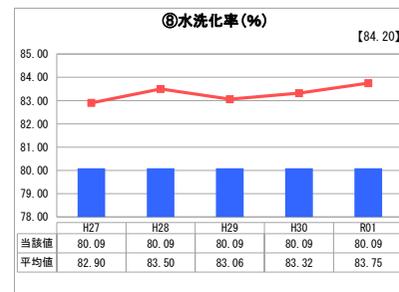
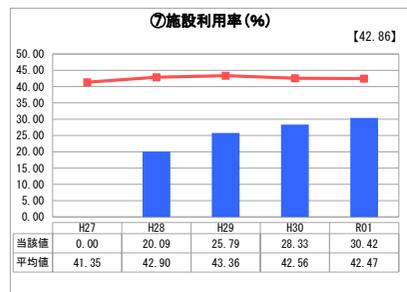
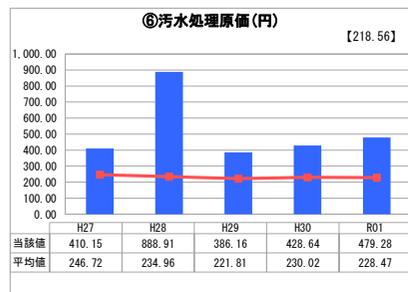
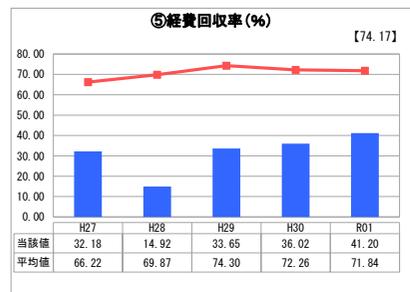
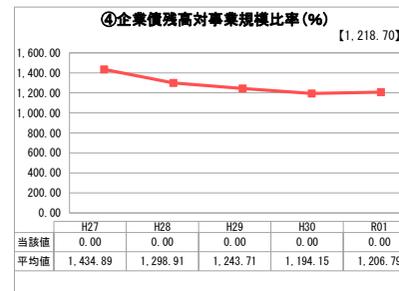
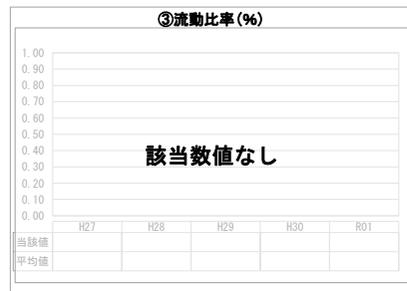
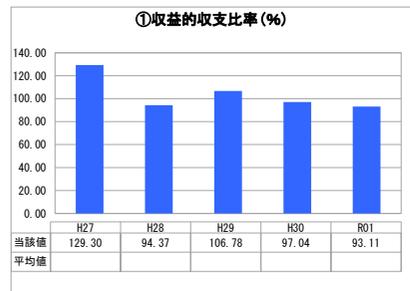
福島県 榎葉町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	77.57	81.49	3,300

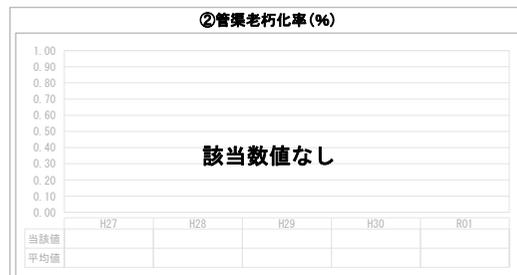
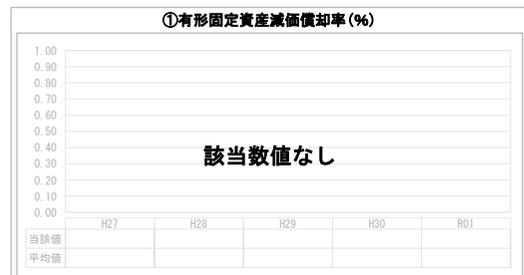
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,845	103.64	66.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,253	3.86	1,619.95

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経営収支比率
当該指標が昨年度と比較し赤字収支となっている。一般会計繰入金は引き続き約7割を占める。使用料改訂を実施したが、今後も更なる料金適正化に向けて検討を図る。

④企業債残高対事業規模比率
地方債においては、全額一般会計繰入金での返済を実施しており、下水道使用料等での返済が極めて困難である。

⑤経費回収率
低い数値となっているが、使用料単価の改訂を実施した結果、若干の改善が見られた。

⑥汚水処理原価
前年度と比較し悪化している。維持管理費等の削減を実施し改善を図りたい。

⑦施設利用率
災害公営住宅や分譲地新規建築等の接続によって増加があり改善が図られている。しかし、遊休状態となっている施設があるため、利活用についての課題あり。

⑧水洗化率
東日本大震災以降、適正な数値化が実施できていないため、今後の課題である。

※全体的に原子力災害による町民帰還が見通せない状況であることに加え、環境省による家屋等の解体が起因と思われる不明水の増大による経費の増加等があり、正確な分析が難しい状況である。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率
東日本大震災による災害復旧工事や受託事業による移設工事等により更新を実施した管渠あり。供用後30年を経過した管渠があることから維持管理を適正に実施し必要箇所の修繕等を実施したい。

全体総括

ストックマネジメント計画により施設の改築・更新を計画的に実施する。また、今後は必要性を検討し更なる使用料の値上げを検討し、経営改善を図る一方、維持管理費の見直しを図られていないことから、PPP、PFI等を活用した維持管理について当町の現状を踏まえ議論する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。